

小学校の標準服・ランドセルから見る大津

A-4 伊藤 文

目 次

はじめに

第1章 聞き取り調査およびアンケート

第2章 調査から気付いたこと

第3章 地理的な観点から見る

第4章 年代で見る

おわりに

はじめに

私は大学に入るまでは別の県に住んでいたが、市内の小学生は国立を除いてみんな私服にランドセルという格好で通学しており、私はそれが当たり前だと思っていた。しかし、こちらで近所の小学生が制服を着ておそろいのナップサックのようなもの（ランリュック）を背負って登校しているのを見て、私の常識が通用しないことに気付いた。そして周りの学校ではどうなのか、大津ではどのように思われているのか調べてみたいと思った。

第1章 聞き取り調査およびアンケート

大津市内の小学校での状況を知るために、それぞれの小学校（公立33校、国立1校）に電話で問い合わせた。教育委員会の方ではデータが得られなかった。調査では制服およびランドセル（ランリュック）を使っているか、また実際にはどのくらいの児童が使っているかをたずねた。33校から回答を得ることができた（2校はアンケートによる）。表1はそれをまとめたものである。

表1 標準服・ランドセルの使用状況

標準服		ランドセル	
ほぼ義務づけられている	9校	ほぼ義務づけられている	7校
自由だが大半は標準服	7校	自由だが大半はランドセル	10校
標準服も私服もある	5校	自由でほかのかばんも多い	10校
完全に私服	12校	ランリュックを指定	6校

また、調査の結果をもとにいくつかの学校を選び、郵送による資料1（後掲）のようなアンケート調査を行った。

第2章 調査から気付いたこと

電話調査の反省点として、「どのくらいの児童が使っているか」という尋ね方だったため、回答者によって異なるあいまいな回答（結構いる、割と少ない）などしかえられなかったということがある。また、私が医大の学生ということもあり調査の目的が理解されにくいという感じをうけた。

私が「制服」と呼んでいた服装は、義務ではないという意味で、公立小学校では「標準服」と呼ばれていることも調査の中で教えてもらった。さらにアンケートの回答（資料2）の学校のように目安としての「通学服」という概念もできているようだ。標準服がある学校は半分以上もあったのは私には新鮮な感じがしたが、完全な私服の学校もかなりあった。ランドセルの場合も他のかばんやランリュック⁽¹⁾を使用している学校も多く、大津市内で決まっているわけではなく本当に様々だという印象である。

ランドセル以外のかばんは肩にかけられるものが多いようである。手が使えらるようという安全面からのようで、学校が指定している場合もある。また高学年になると私服、ランドセルでないかばんが増えるという声も多かった。学年が上がって単に「自由を求める」だけでなく、小さくなったり古くなったりした時に高価なので新しく買いかえないという理由もあ

るらしい。

標準服がある学校でも着ている子とそうでない子がまざっていたり、ランドセルと他のかばんがどちらも使われているという小学校があるのも意外だった。これらの学校は標準服から私服、ランドセルから自由なかばんへという移行期にあるのではないか。このことは後で考える。

標準服とランドセルの関係では、主に標準服を使っている学校はランドセルも使っていることが多かった。逆にランドセルを多く使っているところが必ずしも標準服を使っているわけではなく、私服の学校も多い。ランドセルはほとんどの学校で使われていたことがあるが、標準服は元々なかった学校もあるためだと思う。

第3章 地理的な観点から見る

同じ津市内の小学校でもさまざまな場合がある事が分かったが、これらも地理的に見れば少しは傾向があるのではないか。図1は校区と学校の位置に調査結果を記したものである。

その前に、津市の地域について少し書いておきたい。津市は琵琶湖に沿って南北に長く伸びている。同じ市内でも地域によってまったく異なる性格を持っており、それぞれの地域でのまとまりが強いように思う。その地域性は、津が元々いくつもの町村が合併してできたことによる(図2)。1898年に最初のごくわずかな地域だけの津市が誕生してから1967年に瀬田村・堅田町が合併するまでには69年もの差がある。

津市の場合、小学校の密集している(校区が狭い)地域と少ない地域があるのが、図1からよく分かる。湖岸沿いやもとの津の周囲にたくさん集中しており、南北の端は山に囲まれていて人口も少ないため学校も少ない。

図3の人口の動向もあわせてみると、元の津のあたりでは増加が止まって減少に転じており、人口増加の中心は湖岸沿いの北や南に広がっているのが見られる。同じ減少している地域でも、北部のようにもとから人口が少なく過疎化が進んでいる地域と、中心部のように発展がピークを過ぎて減少に向かっている地域とがあることも分かる。新設校は小学校が密集した地域の周縁に建てられているものが多く、ここからも市街地の広がり方が見えてくる。

そこで改めて標準服・ランドセルの分布を見る。制服は市の中央部で多く使われている。全体に、それ以外の地域では、標準服がなかったり、あってもあまり使われていない傾向にある。しかし、東の端にも標準服のある学校がかたまっている。これは図2の合併前の村に示される地域区分を考えるとわかりやすい。瀬田川をはさんだ東側の、瀬田・田上・大石といった地域では独立した文化地域を形成しているようである。年代については後でも触れるが、31・33といった後からできた学校も制服が義務つけられていることから、最近まで独自性を保っていたと考えられる。

次にランドセルのほうである。中央部で多く義務付けられているのは制服と同じであるが、それ以外は地域によるかたよりはあまり見られない気がする。特にランリュックはまったくばらばらに分散している。ランドセルから自由なかばんやランリュックに移行していったと考えられるが、分布に傾向が見られないことから、この変化は地域間の隔たりが薄くなってきた最近のことであると推測できる。

図 1

(a) 標準服の使用状況

(b) ランドセルの使用状況

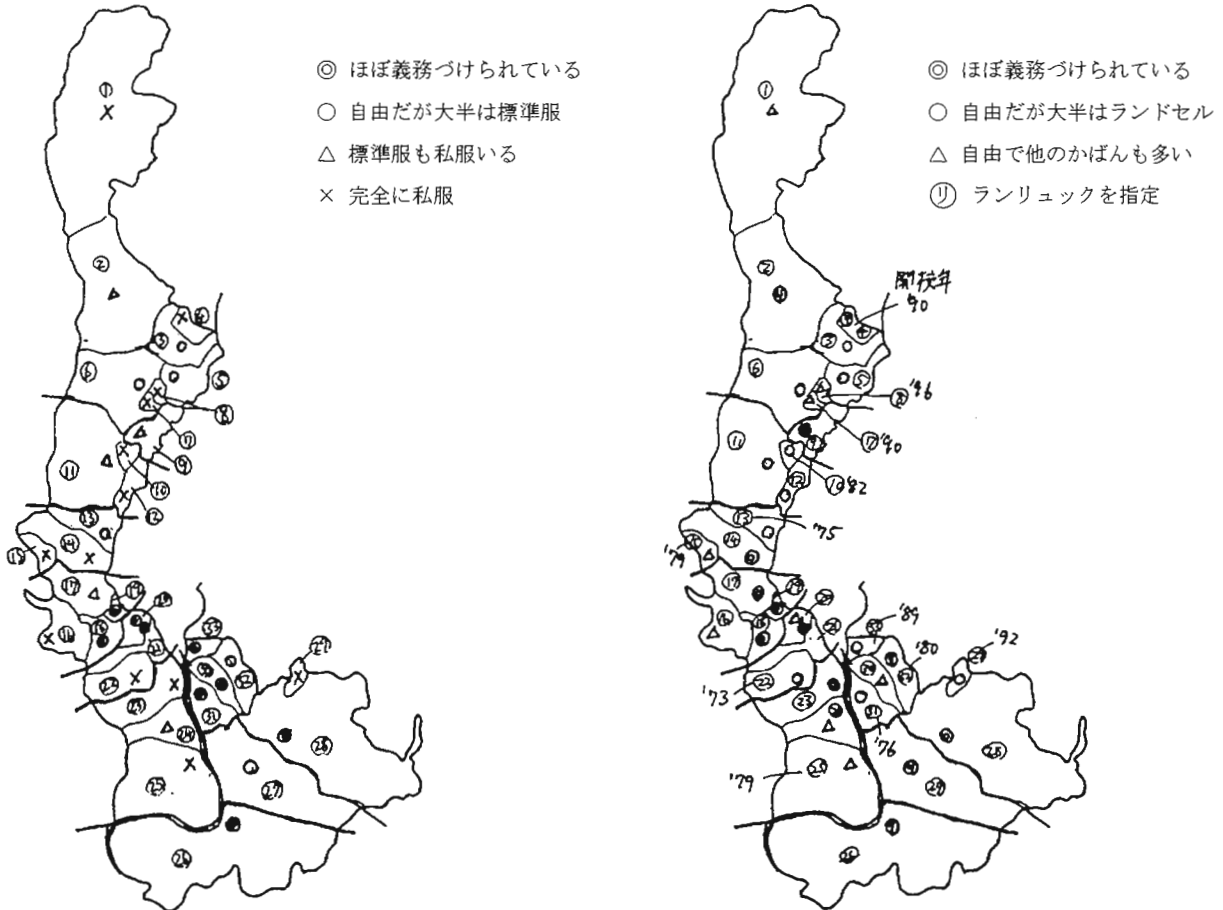


図 2 合併前の町・村 (『わたしたちの大津』より)

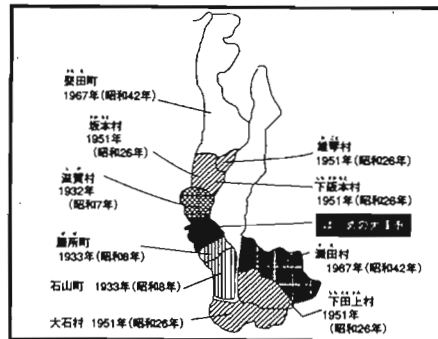


図 3 人口の動き (1980-1994)
 (『平成 6 年版 大津市統計年鑑』による)

年	標準服	ランドセル	位 置
1996	×	△	⑧
1992	×	○	⑳
1990	×	△	⑦
1990	×	リ	④
1989	◎	○	⑬
1982	×	◎	⑩
1979	×	△	⑮
1979	×	△	㉔
1976	◎	○	⑪
1975	○	○	⑬
1973	×	○	㉔

表 2 開校年と制服・ランドセル

第4章 年代で見る

第1章で述べた標準服から自由服へ、ランドセルから自由なかばんへという変化を見るために、新設校（ほかの学校が1873年に立てられた後でできた学校）のみをあげてみたのが表2である。全体で12校ある私服校のうち8校が新設校と、新しい学校は標準服のないところが多い。その中でも最近（1990年以降）にできた学校はすべて標準服である。このことから、社会的な考えとして標準服より自由服という傾向になってきていると考えられる。

しかし、一概に標準服から自由服という流れで進んでいるというわけではない。アンケートを見ると、もともと標準服がなく、戦後の落ち着いてきた時期に標準服を定めたようである。なかには9のように、10～15年前、私が小学校に入学する頃に定めたという学校もある。「保護者の要望で」というのも興味深い。この頃（80年代～90年代）、9の周辺では10や7の学校が自由服で開校しており、少なくとも公の側には自由服より制服という考えだけではなかったはずだ。あえて標準服を定めたということは、私のかつてな推測だが何かきっかけとなる出来事があったか、あるいは7・10・12などの周囲の学校（図3のように人口が急増している地域である）の児童と見分ける必要が生じたなどの仮説が立てられる。

ランドセルのほうでは新設校を見ても大きな傾向は見られない。このことは、3でも触れたように、ランドセルの変化は最近のことで、新設校ができた当時でもそれほど一般的な考えではなかったといえる。特にランリュックは、使っている学校では全員使用していることから、異なる意見が生じる前のごく初期の段階にあると考える。

おわりに

小学生の格好という身近な興味から調べていったが、これを一つのきっかけとして調べていくうちに、大津にはさまざまな地域があって私が普段生活している地域も大津の持つ多くの顔の一つにしかすぎないということがわかってきた。いろいろな個性があっても一つの市としてのまとまりをもつ大津、古い歴史があり今も変化しつづけている大津——まったく知らなかった大津だが、その一部分を感じる事ができたと思う。

この研究にあたっては多くの人に迷惑をおかけした。電話の苦手な私にとって各学校への聞き取り調査は苦勞だったが、非常に丁寧な対応をされてかえって戸惑うこともあった。「フルネーム名乗ること」「直接訪問するか文書で質問すべき」などの学校の先生らしい指導も受けた。アンケートにも丁寧に答えてくださり、「書く欄が少ない」といった指摘もあった。大変よい経験になった。ほかにもお世話になった教育委員会の方や、わざわざランリュックを取り寄せてくださった制服販売店の方など本当に協力的で、たいした研究でないのが申し訳ないような気がした。

こういった専門に関係ない研究では、自分で調べたり発表したりする経験そのものが大切だと考える。その視点から、調査の中で気付いたことを、中身に関係ないことも参考のために書いてきたつもりである。自分で一から調べることは思った以上に神経を使う面倒な作業だった。やっかいなクラスをとってしまったものだと後悔したが、それなりに形にすることができてほっとしている。こういう苦勞もこれから必要になってくるだろう。内容は不十分な点ばかりだが、どうであれ、大変勉強になる経験になったと思う。

注

(1) ランリュックは、ランドセルと同じように肩にかけて教科書などを入れるが、布製なので大変軽い。黄色が多い。

〔参考文献〕

小学校社会科副読本『わたしたちの天津』（大津市教育委員会、1996年、12版改訂）

資料1 アンケート実施の詳細

〔依頼文〕

標準服・ランドセルに関するアンケートのお願い

私たちは今「人間科学研究」という授業の中で自分が設定したテーマについて調べています。私は「小学校の標準服・ランドセルから見る天津市」というテーマで小学校の標準服およびランドセルについて調査したのですが、さらに知りたいことが出てきたため、いくつかの学校にアンケートをお願いすることにしました。書いていただいた内容をこの研究以外の目的に使用することはありません。お忙しいところとは思いますが、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。不明な点などありましたら下記までご連絡ください。

滋賀医科大学 2年生 伊藤 文

なお、急で申し訳ありませんが、7月末までに投函していただくようお願いします。

〔質問票〕

A. 標準服に関するアンケート

当てはまるものに○をして下さい。

1. 標準服はありますか。

(aある…2へ bない…5へ)

2から4は1で「ある」と答えた方におたずねします

2. 実際にどのくらいの児童が標準服を着ていますか。

(2割程度 4割程度 6割程度 8割程度 全員)

3. いつ頃から標準服がありましたか。例 開校時から・昭和20年代…など

()

4. 標準服のどんな点がよい、あるいは問題だと思いますか。

(よい点)

(問題点) …7へ

5. 6は1で「ない」と答えた方におたずねします

5. いつ頃から自由服でしたか。例 開校時から・昭和20年代…など

()

6. 自由服のどんな点がよい、あるいは問題だと思いますか。

(よい点)

(問題点)

すべての方におたずねします

7. 服装に関する規則を書いて下さい。

()

8. 15年以内に服装に関する規則の変化がありましたか。

(a. あった b. ない)

「あった」と答えた方におたずねします

以前はどのような内容でしたか。

()

児童や保護者の反応はどうでしたか。

()

ありがとうございました

B. ランドセルに関するアンケート

当てはまるものに○をして下さい

1. どのくらいの児童がランドセルを使っていますか。

(2割程度 4割程度 6割程度 8割程度 全員)

2. ランドセルを使っていない生徒はどのようなかばんを使っていますか。

()

3. ランドセルのどんな点がよい、あるいは問題だと思いますか。

(よい点)

(問題点)

4. ランドセル等に関する規則を書いて下さい。

()

5. 15年以内にランドセル等に関する規則の変化がありましたか。

(a. あった b. ない)

「あった」と答えた方におたずねします

以前はどのような内容でしたか。

()

児童や保護者の反応はどうでしたか。

()

ありがとうございました

C. ランリュックに関するアンケート

当てはまるものに○をして下さい

1. どのくらいの児童がランリュックを使っていますか。

(2割程度 4割程度 6割程度 8割程度 全員)

2. いつ頃からランリュックを使っていますか。例 開校時から・昭和20年代…など

()

3. ランリュックの前は何を使っていましたか。

()

4. ランリュックのどんな点がよい、あるいは問題だと思いますか。

(よい点)

(問題点)

5. ランリュックに関する規則を書いて下さい。

()

6. 児童や保護者はランリュックについてどう考えているようですか。

()

ありがとうございました

資料2 アンケートの回答

① 位置 9

開校 1873年

標準服

1. ある
2. 4割
3. 今から10～15年位前。保護者の要望で。
4. 良い点 親にとっては楽。
問題点 親・子供にとって、どういう服装が通学に向いているのか考えたり工夫する機会を奪われた。

ランリュック

1. 全員
2. わからない。かなり以前。
3. 良い点 遠足や修学旅行にも、リュックサックの代わりに使用している。安価である。
6. 好評である。

② 位置 11

開校 1873年

標準服

1. ある
2. ほとんどなし
3. 戦後。6年前にPTAで検討し、現行の形で決定。
4. 良い点 不明
問題点 現状では自由服状態なので、ルールは破っても良いという意識を育てているのではないか。
7. 1 白系統を中心として、落ち着いた色のカッターシャツ・ブラウス、Tシャツ、ポロシャツ
2 白・紺・黒系統を中心とした、落ち着いた色のセーター、ベスト、トレーナー
3 紺・黒系統を中心とした、落ち着いた色の半ズボン・スカートやキュロット（気候と体調により長ズボン可）
・汚れても良い、活動しやすいものを着よう。
・ハデ過ぎるものはさけ、落ち着いた色のものを着よう。
・流行にとらわれず、また、高価なものも避けよう。（式の日の服装は、特に気をつけよう。）
以上の点に注意し、親子で相談して小学生らしい服装をしよう。
8. あった
「標準服」から「通学服」へ
反応 家庭での話し合いを大切にしよう。

ランドセル

1. 8割
2. 背負えるリュック状のもの・肩掛け式のスポーツバッグ
3. よい点 収納、運搬に優れていて、長持ちする。
問題点 かさばる、高価である。
4. 特にないが、転入生にも安全面を考えて背負えるものをお願いしている。
5. ない

③ 位置 15

開校年 1979年

標準服

1. ない
5. 開校時（昭和54年）から
6. よい点 個性尊重、自由意志
問題点 ロングスカートなど児童の活動にふさわしくないものがある。重ね着ルックで厚着になる。高学年男子は長ズボンになり、短ズボンの子供らしさがなくなる。
7. ない

ランドセル

1. 4割
2. リュックサック
3. よい点 型くずれがなく、体にフィットする。しっかりした作り、丈夫で長持ち。大きさが一定なので教室での収納に便利。
問題点 高価、重い。教科書やノートなど四角いものには対応できるが、それ以外は入れにくい。
4. ない

④ 位置 17

開校年 1873 年

標準服

1. ある
2. 8割
3. おそらく開校時（戦後）
4. よい点 華美にならない
問題点 選択などがしにくい。画一的、没個性。
7. ない

ランドセル

1. 8割
2. ナップサックなど肩から背負えるもの
3. よい点 長年月の使用に耐える
問題点 重い、大きい
5. 背負えるもので、両手が自由になること。
6. ない

⑤ 位置 18

開校年 1873 年

標準服

1. ある
2. ほぼ全員
3. 昭和 30 年代から
4. よい点 子供同士互いの服に気をつかわなくてよい。服装について、あれこれ指導しなくてよい
その他 私服を着せてほしいという親の中に「標準服では子供の個性がつぶされる」というものがあつた。個性とは単に通学服で決まるものではない。単に親が「嫌いだから・慣れていないから反対」という感じだった。

ランドセル

1. ほぼ全員
2. 手提げ袋など。
3. よい点 体力的に見て背負える。経費的に見て 6 年間使える。量的に見て、学校で使用するものすべてが入れられる。
5. ない

⑥ 位置 23

開校年 1873 年

標準服

1. ない
5. 開校時から
6. よい点 学習にふさわしい服なら、選択してあれば自由に選べるところ。
問題点 子育てに関しても今までの常識がなくなったかのような今日、学習にふさわ

しくない服装で登校させる保護者がずいぶん増えて、様々な点で支障がある。

1. 派手にならなく、学習にふさわしい服装。
2. ない

ランドセル

1. 8割
2. リュックサック（ランドセルが使用不能となり改めて購入するには高価なため）
3. よい点 両手が自由で、いざというとき使える。（安全、機能的）長持ちするため結局経済的、ものを大切に使うという教育的。
問題点 一度破損すると修理しにくかったり、買い換えるには高価である。
4. 両手が自由であればOKのみ
5. ない

〔コメント〕

伊藤文さんは、「小学校の標準服・ランドセルから見る大津」というトピックを取り上げましたが、これは自分が生まれ育った地域と異なり、現在生活している大津で目にするこれらのものに着目し、地域的にあるいは歴史的に見た特性を考察しようと試みたものです。滋賀県は日本の中でも人口増加の著しい県で、古いものが残りながら新しいものがどんどん混在していく過程にあるといえます。その中で琵琶湖の南西に広がる大津市に焦点を絞って一校一校に当たっていくというやり方は、ごく短い期間での研究課題としては、おもしろい着眼点だと思います。もう少し比較の対象になる地域を加えたり、アンケート方法などに厳密さが望まれたりする部分もありますが、ふだん何気なく見過ごしているような事実が考察されているので、興味深く読めます。

本人の弁にもあるように、医大生が唐突に、社会へ出てアンケートをお願いするというなかで、いたらなかったところ、後で気がついたことなどさまざまな社会勉強ができたようです。ご協力いただいた諸校に、この場を借りて一同、心から感謝の意を表させていただきます。
(相浦玲子)